

山梨県スポーツ指導者協議会

会報

第二十四号

平成26年
3月
発行

あいさつ

～再考「指導者の役割」～



会長 若尾重廣

(柔道コーチ・空手道上級コーチ・ジュニア
スポーツ指導員・アシスタントマネジャー)

我が国の体育・スポーツの振興

を担う日本体育協会・日本オリンピック委員会が平成二十三年七月に創立一〇〇周年を迎え、次の一〇〇年へ向けての「スポーツ宣言日本」が採択された。ほぼ期を同じくして、「スポーツ振興法」が五十年振りに全面改正され、平成二十三年八月に「スポーツ基本法」が施行された。スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり共通の文化として位置づけられ、平成二十四年から「スポーツ立国日本」

への歩みが始まった。

崇高な目標に向かって歩み始めたばかりの日本スポーツ界に、指導者の体罰問題がマスコミ等で大きく取り上げられ、これを機に全国各地の中学・高校、各種団体等での暴力問題（含パワハラ・セクハラ）が連日報道された。一例を挙げると「心より金メダル」との見出しで、指導者の勝利至上主義が暴露されていた。しかしその様な中で、スポーツ評論家玉木正之先生は「スポーツとは、根源的に一切の暴力を否定し「殺すな！」

という「平和」のメッセージを含む人類が生んだ偉大な文化と言えるのだ」と述べており、正にその通りで感激一入であった。平成二十五年四月二十五日、日本青年館大ホールにて「スポーツ界における暴力行為根絶に向けた集い」が開かれ、スポーツ指導者は勿論、各界有識者が「提案された原案」につき慎重審議の末「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」が採択された。（日本体育協会発行「スポーツ指導者のための倫理ガイドライン」参照）



山梨県スポーツ指導者協議会は「指導者の資質向上と相互の連携・県民のスポーツ普及発展に寄与すること」を目的に活動を推進する団体である。日本体育協会の資料によると、本県の有資格指導者は延べ二、三四九人（実人数約一、七〇〇人）であるが、今年度本会で実施した研修会への出席は四会場合わせて三〇〇名程であった。「スポーツ立国日本」を目指す上で、公認指導者の必要性は倍増することと請け合いであるため、研修会・各種行事等に奮って参加し資質の向上に努めていただきたい。

「素晴らしい間柄の体得」



山梨県ハンドボール協会

会長 平塚 一彦

(元シャトレレーゼ監督)

私は物心がついた頃から今日まで、ハンドボールという競技に、選手、コーチ、監督として情熱を傾けてきた。

最近、スポーツ指導者の体罰が世間を賑わせているが、監督、コーチ時代の私

がそのようなことを一切しないで日本のトップチームを創り上げたというところで、その由来についての投稿を依頼されたので、大分古いことではあるが、当時を思い起こして、その責務を果たすこととした。

ハンドボールの選手として四十年近くやってきたが、私は一度も体罰を受けたことがなかった。どのような時に体罰されるのか理解に苦しむところである。

さて、大きく過去に戻ってみると、平成八年から十五年まで、実業団チーム・シャトレレーゼの監督を務めたが、その初仕事で選手が集っている体育館に入って、異様な光景に遭遇したのである。

誰一人として挨拶を交してこなかったのである。本当にびっくりし、これは大変な所に来てしまったという思いをしたのが第一印象で、体罰を受けたことのない、又したことのない私であったが、この時ばかりは手を振り上げたい気持ちにかられたのが本音であった。

これまでのチームづくりには何かあったな、と詮索せざるを得ない状態で監督一年目に突入した訳であるが、案の定、この年の日本リーグ(平成八年度)で二部に転落、辛く涙の出る日々の連続となってしまった。

しかし、石の上にも三年という諺を信じて二年目(平成九年度)にはチーム内の組織の確立に先ず着手した。私と選手間の年令差からくる問題を考慮して、若いコーチの採用に踏み切った。幸い大卒(筑波大)、外国でのコーチ修行を経た若きエースに出合うことができ、共に手を携えることとした。

他チームの体罰的指導を目にしてきたことから、条件の第一に手を出さないことをこのコーチと約束し、その上で日本一を勝ち取るうと、平成九年から二人三脚でのチーム創りがスタートした。

その内容は、

- 第一に、選手達と居る時間を多く作ること。
- 第二に、週一回、主将を含めて三人で、個々の役割



のチェックを図ること。

第三に、毎月末の全体ミーティングを行い、練習計画の検討と確認を図ること。

このような中で、技術の向上は練習だけではないという発想から、次のことの実践に心掛けた。

- 一、体力トレーニングのための専門知識のある指導者の確保
- 二、ハートのない選手は伸び悩むことが多いことから、精神面の強化

- 三、年に一回、オフを利用して富士登山、スキー教室、お花見等の実施
- 四、選手との対話の重視
- 五、選手との距離感についての配慮

六、年令的に高い選手への異性関係の相談活動

このようにして、私とコーチは出来るだけ選手と一緒の時間を作ることを配意した。

何といつても指導者に大切なことは、選手に対して情熱を傾けることである。

「偽り」の言葉では絶対に選手は付いて来ないということである。常に本気で怒り、本気で褒めてやることに務めた。最終的には、指導者の考え方が、選手のプレーに反映し、トレーニングや技術だけでなく、生活スタイルに至るまで、選手に大きな影響を与えることができた。

「絶対に体罰なし」を心に誓い、私とコーチで試行錯誤しながら、監督になって

四年目で、やっと日本でも
トップを狙えるチームにな
り、平成十三年高知国体で
優勝することができた。
挨拶もできなかった集団
が、四年間で、何故体罰な
しで一回りも二回りも成長
したのか、私とコーチで冷
静になって振り返って見た
ことを最後に述べたい。
それは、
一、お互いの意見を言うこ
とができるようになり、物
事を色々な角度から考え、
自分なりの意見を選手が持
つようになった。

二、他人の意見を理解し、
取り入れるようになった。
三、闘争心をむきだしにし
て競争するようになり、練
習中、遠慮をしないように
なった。
四、全員にチャンスを与え、
練習で実績を出している選

手を試合に起用することと
した。
スポーツは勿論のこと、
生活全般に亘って相談相手
になっていただいている先
輩にこのことを話すと、よ
く「座右の銘」(常に自分の
戒めの言葉)が話題になる

が、私の座右の銘は「間柄
の美学」、即ち「素晴らしい
間柄を体得させたこと」で、
そのことに専心したからこ
そのような成果が収めら
れたんだ、と評価していた
だいたことを終わりに記し
て、筆を置く。

「新しい時代にふさわしい指導者」



山梨県教育庁スポーツ健康課

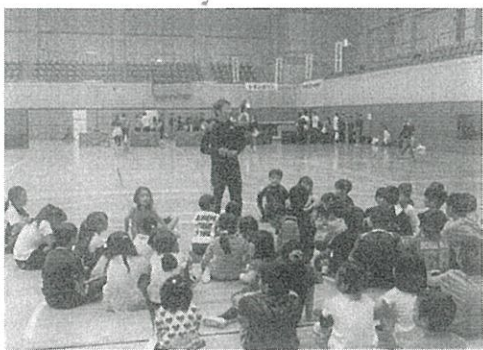
主幹 浅川 英三

我が国のスポーツは、こ
れまで多くの熱心な指導者
の努力に支えられてきた
が、スポーツの指導におい
て暴力を行使する残念な
事案が明らかになった。文
部科学省では、この事態を
我が国のスポーツ史上最大
の危機と捉え、「スポーツ
の指導から暴力を一掃す
る」という基本原則に立ち
戻り、「スポーツ指導者の

資質能力向上のための有識
者会議(タスクフォース)
を組織し、「新しい時代に
ふさわしい指導法(者)」
について、具体的な方策を
まとめた。今回は、その概
要を紹介する。
スポーツは、私たちの「こ
ころ」と「からだ」の健全
な発達を促し、人生をより
豊かで充実したものとする
とともに、明るく活力に満

ちた社会の形成に寄与する
世界共通の人類の文化の一
つである。
指導者は、まず、このス
ポーツが持つ価値を尊重
し、競技者の目標達成のた
めに最大限サポートする役
割を担っていることを常に
意識して指導にあたること
が必要となる。
次に、指導に必要な知識
や技能を学び、効果的な指
導が実践できるようにする
ことである。その際、競技
者に対し強制ではなく、人
格を尊重し主体的な判断や
行動を促すこと、練習の量
だけではなく質を重視する
こと、指導者が持つ影響力

を自覚し、社会の規範を遵
守することなど、スポーツ
そのものの価値や健全性を
高めることを意識し指導に
あたる必要がある。
この度の暴力行為根絶へ
の取り組みが始まったとこ
ろへ、二〇二〇年東京オリ
ンピック・パラリンピック
開催が決定し、スポーツ界
への注目度は増した。暴力
の問題も、瞬時に世界を駆
け巡る。このことは、改め
て指導者の一人ひとりが、
スポーツ界から暴力を根絶
するという共通認識を強く
持ち、自覚したなかで指
導にあたることが求められ
る。



おわりに、スポーツの指
導に携わる皆様には、ス
ポーツの健全性の回復とス
ポーツの価値の向上を目指
し、世界に誇るスポーツ界
を創り上げる当事者になっ
てご尽力いただくことを期
待している。

研修会の報告

「第一回スポーツ指導者研修会に参加して」

峡中支部

保坂 いおり

(水泳指導員)



平成二十五年六月十五日(土)小瀬武道館アリーナに於いて、山梨県スポーツ指導者研修会に参加した。

功労者表彰式(一名受賞)を行った後、山梨学院大学法学部法学科教授の上條醇先生をお招きし、「体罰は何故なくならないか・司法判断をふまえて考える」という司法の専門の立場から考える講演を拝聴した。

最近、テレビや新聞などで、体罰の問題が時々取り上げられているので、私もスポーツ指導に関わる人間として興味深く、先生の例を挙げられながらのお話はとても参考となり、これからの指導に役立つと考えている。

「講演」の後には「実技」で「太極拳・基本動作を体験する」を体験させて頂いた。

講師には、長谷川光男先生をはじめ、他三名の助手の先生方にご指導して頂いた。

太極拳とは、全身の動作を気で戦う、歴史と伝統のある武術だということと、護身術の基本動作を実技の中で習んだ。

とても有意義な研修会を受講させて頂いた。



「第二回スポーツ指導者研修会に参加して」

笛吹支部

金丸 学

(ソフトテニス指導員)



「体罰は何故なくならないのか、司法判断をふまえて考える」山梨学院大学の立の桜宮高校事件が起こったことにより、部活動ガイドライン(案)が策定されたこと、また、文部科学省

が「運動部活動の在り方に関する調査研究報告書」を各都道府県教育委員会教育長等に通知したこと、体罰について大きな社会問題となったことの説明を受けた。体罰の定義や具体的に学校教育の一環として認められるものについても説明され、自分の過去のことを思い出し、あれは体罰だったのか、指導だったのかと考えさせられた。

自分がプレーヤーであった時代は「愛のムチ」として今では体罰と言われる行為を受けたことがある。殴られたり叩かれたりしたが自分のプレーが上手いはず自分自身で歯がゆいと強く感じていたので、あまり気にしないでその時代を過ごした記憶がある。そのような指導過程を踏んで育ってきたので、自分が指導者になったとき、感情的になると若い頃は同じような指導をしてしまう自分がいた。今はそのようなことが許



される時代ではない。体罰に思いを伝えられるか指導力が問われると思う。立派なスポーツ選手の前には一人の人間として成長させられるように試行錯誤しながらこれからも指導者として努力をしていきたい。



「第三回スポーツ指導者 研修会に参加して」

南都留支部

羽田 和 矢

(陸上競技上級指導員)



常に手探り状態の指導現場。こちらの伝えたい思いが選手等になかなか伝わらず、意思の疎通の困難さに打ち碎かれることがある。良かれと思った言動も仇となり、その行き着く先として「体罰問題」に及んでしまふことにもなる。

昨年女子柔道界の問題でも当該指導者は「信頼関係の上で行った行為であった。勝つために必要だった。」と話していたが、これは指導者の独善的な思い込みによるもので、今回の講義では、指導者と選手等の「相互関係」をより高い

ものに構築していくことが体罰防止のために重要なことであると再認識することができた。

また思い込みではないが、先輩や自分のやってきた経験に基づく「常識的」な指導や練習を日常行っている。しかし指導の方法や理論は日進月歩であり、今回の実技講習では、ウォーミングアップやウエイトト

レーニングなどでこれまでの「常識」にはない興味深い内容であった。すぐに現場で用いていく

かどうかは、自分なりにもう少し吟味したいところではあるが、やはり常にアンテナを伸ばして貪欲に新しい知識や理論を学んでいかなければならないと改めて自覚する良い機会となった。



「総合型地域スポーツクラブ 法人化に至る経緯」



一般社団法人 忍野村スポーツ振興協会

事務局長 小佐野 泰

平成二十二年度に総合型地域スポーツクラブ創設支援事業の助成を日本体育協

協会から受け、事業を実施してきた。

会から受け、平成二十三年三月二十日に任意団体として忍野スポーツクラブを創設した。

平成二十三年度から総合

型地域スポーツクラブ自立支援事業の助成を日本体育協会を發足させ、次の事項等

型地域スポーツクラブ自立支援事業の助成を日本体育

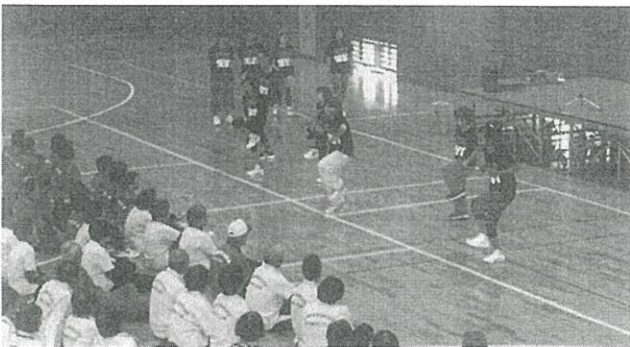
会を發足させ、次の事項等

を検討課題とし、検討を行った。

- 一. 自己財源を確保するための方策などを運営委員が一体となって検討したところ、体育館などの清掃委託や将来的に指定管理者として指定を受けるためには、法人化したほうが有利ではないか。
- 二. 独立行政法人日本スポーツ振興センターから直接助成を受けることにより、年間を通じての事業展開が行えるのではないか。
- 三. スポーツ実施団体の中

心的な役割を果たすためにも、法人化を有したほうが得策ではないか。

との、結論を得て法人化（一般社団法人）を平成二十四年七月二十六日に發足した。法人化したことにより、体育館の清掃委託を受けるなど自己財源の確保に結びつけるとともに独立行政法人日本スポーツ振興センターより通年の助成を受けるなどして、本村のスポーツ振興の中核を担っている。



「峡北支部再始動」



組織財源部 内田 建也
(剣道指導員・アシスタントマネジャー)

山梨県スポーツ指導者協議会の行う事業は、当協議会会則四条に掲げられている通り、その第一は「県内スポーツ指導者の組織指導



体制の確立」である。また、当協議会に設置されている専門部会は、活動促進部会、広報普及部会、組織財源部

支部の再始動が強く望まれていた。

の三部門があり、「支部に関すること」(組織立ち上げ他)は、組織財源部の業務分掌の柱となっている。

今回、峡北支部復活の糸口となったのは、平成

二十六年三月二日に東京エレクトロン葦崎文化ホール会議室において開催され、「支部会則」「平成二十六・二十七年役員」「平成二十六年度事業計画・予算」等が承認された後、新支部長大塚勝雄氏の力強い就任の挨拶があり、峡北支部が再始動した。

葦崎市を含む峡北地区は、前々から公認スポーツ有資格指導者多数を擁し、支部としての活動もあつたが現在は休止しており、県内では北都留支部と合わせ二支部が休止している状態であった。そして、平成二十六年一月二十九日の第一回峡北支部準備会を皮切りに、平成二十六年二月二十八日の第六回まで六回に渡って準備会を重ね、本年三月二日の設立総会まで漕ぎつけた。



峡北地区指導者に集合していただき、趣旨説明を行い、支部設立の準備をして行くことで了解をいただいた。そして、平成二十六年一月二十九日の第一回峡北支部準備会を皮切りに、平成二十六年二月二十八日の第六回まで六回に渡って準備会を重ね、本年三月二日の設立総会まで漕ぎつけた。

株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ専務取締役ゼネラルマネジャー佐久間悟氏を講師に「スポーツで山梨を豊かに」スポーツの地域連携における人づくり」をテーマに御講演をいただいた。

地域・行政・スポーツ団体などが連携し、指導者やアスリートと共にスポーツ振興を図って行く将来を見すえた講演は、新たに活動をスタートする峡北支部の方々にとつても、非常に参考となる内容であった。

結びに、峡北支部の今後の御発展を祈念するとともに、支部設立に御尽力をいただいた全ての方々にお礼を申し上げる。



平成二十五年度

「公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者等表彰」

指導者



中野 肇 (スポーツプログラマー)



中野 布久次 (スポーツプログラマー)



伊藤 倫治 (バレーボール指導員)



川合 耕治 (スポーツドクター)

スポーツドクター

平成二十五年度

「山梨県スポーツ指導者協議会表彰」

功労者



伊藤 倫治 (バレーボール指導員)

公認スポーツ指導者

表彰を受賞して

日本体育協会公認
スポーツ指導者

表彰を受賞して

甲府支部 理事

中野 肇・布久次
(スポーツプログラマー)

公認スポーツ指導者表彰を頂き
関係の皆様感謝申し上げます。

私共、公立小中学校を定年退職し、総合型地域スポーツクラブ伊勢スポーツクラブに所属した。在職中、県レクリエーション協会主催のインストラクター講習を経て、レクコーディネーターの資格を取得、その後スポーツプログラマーの資格を取得した。県レク協ニユースポーツ研究部の会員の皆様と活動をしてきた。近年、生涯スポーツを楽しむ人々の増加が目立ち、学校における学習指導要領においても、体力の向上を図り、その内容も拡大されている。未来に対応できるニユースポーツはスポーツ

クラブでの活動を通して有意義なものと考えている。因みに、伊勢スポーツクラブでの活動は、ペタンク、スポチャン、ユニカール、チャレンジ・ザ・ゲーム、タスポニーである。ニユースポーツという言葉はいろいろな使い方をされている。今までになかった新しいスポーツという意味でのニユースポーツ、今のスポーツの概念と異なるスポーツという意味でのニユースポーツ、また中には新しいジャンルとしてのニユースポーツを考えている人もいるようである。子ども達に、体を動かし楽しくふれ合う中で、心身共に円満で健康的に過ごす事を身につけてもらいたいと思う。



平成25年度山梨県スポーツ指導者協議会事業報告

年	月日 (曜日)	事業名	会場等
平成25年	4月6日 (土)	<協力事業> 山梨県スポーツ少年団フェスティバル	小瀬中銀スタジアム他
	4月26日 (金)	平成24年度 会計監査	小瀬管理事務所会議室
	5月17日 (金)	第1回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	5月22日 (水)	第1回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	6月15日 (土)	平成25年度 山梨県スポーツ指導者協議会総会 及び第1回研修会	小瀬武道館アリーナ
	7月12日 (金)	第2回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	7月17日 (水)	第2回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	8月29日 (木)	第3回峡北支部設立準備会	すたまふれあい館
	11月15日 (金)	第3回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	11月17日 (日)	第2回研修会	御坂農村環境改善センター
	11月20日 (水)	第3回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	11月22日 (金)	第4回峡北支部設立準備会	すたまふれあい館
	12月13日 (金)	平成25年度全国スポーツ指導者連絡会議	東京都
12月14日 (土)	平成25年度公認スポーツ指導者等表彰式 全国研修会	東京都	
平成26年	1月15日 (水)	第5回峡北支部設立準備会	すたまふれあい館
	1月26日 (日)	第3回研修会	鐘山総合スポーツセンター
	2月28日 (金)	第6回峡北支部設立準備会	すたまふれあい館
	3月2日 (日)	会員特別講習会 峡北支部設立総会	東京エレクトロン韮崎文化ホール 東京エレクトロン韮崎文化ホール
	3月12日 (水)	第4回執行部会議 第4回理事会・専門部会	小瀬武道館第2会議室 小瀬武道館第2会議室
	3月31日 (月)	会報第24号発刊	

平成26年度山梨県スポーツ指導者協議会事業計画

年	月日 (曜日)	事業名	会場等
平成26年	4月5日 (土)	<協力事業> 山梨県スポーツ少年団フェスティバル	小瀬中銀スタジアム他
	4月25日 (金)	平成25年度 会計監査	小瀬管理事務所会議室
	5月16日 (金)	第1回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	5月21日 (水)	第1回理事会 専門部会	小瀬武道館第1会議室
	6月7日 (土)	平成26年度 山梨県スポーツ指導者協議会総会 及び第1回研修会	小瀬武道館アリーナ
	7月11日 (金)	第2回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	7月16日 (水)	第2回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	8月～9月上旬	第2回研修会	未定
	10月31日 (金)	第3回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	11月5日 (水)	第3回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	11月～1月上旬	第3回研修会	未定
	12月13日 (土) 頃	平成26年度全国スポーツ指導者連絡会議	東京都
12月14日 (日) 頃	平成26年度公認スポーツ指導者等表彰式 全国研修会	東京都	
平成27年	未定	会員特別講習会	未定
	2月13日 (金)	第4回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	2月18日 (水)	第4回理事会・専門部会	小瀬武道館第1会議室
	3月下旬	会報第25号発刊	

発行元
山梨県スポーツ指導者協議会
〈事務局〉

〒400-0836 山梨県甲府市小瀬町 840
公益財団法人 山梨県体育協会内
TEL 055-243-8588 / FAX 055-243-8599

会報の編集に当たり、皆様の参考になるよう、また、表彰者のご案内など多くの情報が提供出来ればと会報の発刊に当たりました。出来るだけ、見やすい会報を目指して行きたいと思えます。編集：広報普及部

